

扶桑精工株式会社

ガラスびん用金型の
国内トップメーカー

納期
相談
コスト
相談
オンリー
ワン技術
メイドイン
ジャパン
量産
対応



ガラスびん用金型の製造・販売で国内トップシェア

主な事業内容

ガラスびん用金型、
プラスチック用金型の製造・販売

主な取引先(納入先)

ガラスびんメーカー、
容器メーカー、飲料メーカー

主な製品

ガラスびん用金型、プラスチック用金型、
金型冷却回路洗浄装置「アラッタくん」

業務
内容プラスチック用
金型事業も手がける

扶桑精工グループはガラスびん用金型、プラスチック用金型のメーカー。ガラスびん用金型の製造・販売では、国内シェアトップの企業だ。産業用ロボットなど産業機械の製造や太陽光パネル発電を活用した再生可能エネルギー事業も手がけている。

創業は戦後間もない時期の昭和22年。「ものづくりこそがこれからの日本のためになる仕事だ」と思った初代社長の大喜多仁氏が、戦時中、物資の調達をした経験からガラスびん用金型に着目して事業を始めた。昭和30年には需要を先取りするかたちで、プラスチック用金型事業にも進出している。

強み

金型材料の鋳物から
自社グループで一貫製造

同社の強みは、国内で唯一、ガラスびん用金型の材料となる鋳物から一貫して自社グループで製造していることだ。高温でも割れないよう、非常に繊細な技術が求められる金型材料作りを素材から手がけているため、顧客からの信頼は大きい。FMS（フレキシブル生産システム）の導入により金型製造

工程の7割ほどを自動化。納期短縮などの要請にも応えてきた。

また、プラスチック用金型は、顧客のニーズに応じて射出成形金型もブロー成形（中空成形）金型も製造することが可能だ。特に注射器やペットボトル用キャップなどの小型で精密な金型は100mmのピッチの誤差を3μmに抑える製造技術を保有している。

自社
製品自社開発の金型冷却回路
洗浄装置「アラッタくん」

75年の歴史を持ち、現在も売上比率が大半を占める主力事業のガラスびん用金型。飲料容器としてのガラスびんは、紙製やアルミ製の競合が激しくなっているが、「需要がなくなることはない」と、大平昌宏取締役は話す。ただ、将来を見すえ、自社開発製品にも力を入れる方針だ。

その一つが、金型冷却回路洗浄装置「アラッタくん」。現場で使える小型の洗浄機が欲しいという顧客の要望に応えたものだ。独自配合の洗浄液を用いることで酸洗浄に弱い鋳鉄やアルミニウム合金にも使えるのが特徴。顧客との関係強化で、本業である金型の販売にも寄与すると同社は期待している。

社長あいさつ

代表取締役社長
松山 広信さん

扶桑精工グループはものづくり、特に生産財にこだわり続けて70年余り。工場は関東と関西、中部、東北に分散立地し、「One FUSO」を合言葉に連携しつつ、独自の技術を世に送り出しています。今後もしっかりと既存事業を固めつつ、新たな分野への戦略も練っていきたいと思います。

主な保有設備

- 門型マシニングセンタ MCR-A5C オークマ製 1台
- 同時5軸縦旋盤 DMC125FD DMG森精機製 1台
- 上記以外のマシニングセンタ 36台
- 上記以外のNC旋盤 24台
- 上記以外の複合加工機 13台

大阪
04

ISO 9001

住 所／〒567-0058
茨木市
西豊川町3-10
T E L／072-643-1212
F A X／072-641-1548
創 業／昭和22年 1 月
設 立／昭和26年12月
資本金／1,000万円
従業員／78名



金型冷却回路洗浄装置「アラッタくん」



ガラスびん用金型を材料から製作



<https://www.fuso-seiko.co.jp/>